

## 会 議 録

会議の名称	第9回行田市補助金等調査委員会
開催日時	平成28年9月29日(木) 開会；午後1時30分・閉会；午後3時45分
開催場所	行田市産業文化会館 2階 2A・2B会議室
出席者(委員) 氏 名	秋山義継会長、吉田幸一委員、小川栄一委員、有田親史委員、 矢田千賀子委員、江黒早苗委員
欠席者(委員) 氏 名	なし
事務局	財政課：横田課長、加藤主査、高澤主事
会議内容	・答申案(補助金等検討結果)の意見交換
会議資料	(資料名・概要等) ・補助金等検討結果一覧等
その他必要 事項	傍聴者 なし

事務局	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 議事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の公開、非公開の取扱いについては、個人情報を取扱うことがないことから、原則公開とする。</li> </ul> <p>また、会議録についても、委員名を明記した上で要点筆記とし、市政情報コーナー及び行田市のホームページにおいて公開する。</p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題にある答申（案）の方の補助金の検討結果において、説明をいただき、その後、皆様と意見交換を進めて参りたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の結果の方からご報告させていただく。本日、配布した別紙 2 という団体運営費補助の補助金等検討結果一覧をご覧いただきたい。前回、委員からご意見を頂いたものを反映させていただいた。</li> </ul>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>3 番の職員厚生会交付金</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こちらは、「意見を付して現行のとおり」であるが、意見の中で、主に「有効活用」の点を付け加えさせていただいた。</li> </ul>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>6 番の自治会連合会補助金、7 番の自治会交付金、9 番のコミュニティ協議会運営費交付金</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6 番と 7 番は、こちらは、以前は「現行のとおり」であったが、次のページをご覧いただきたい。9 番のコミュニティ協議会運営費交付金の「統合の検討」の中で、種々のご意見をいただいたところである。意見を反映させていただいた結果として、前頁の 6 番の自治会連合会補助金、7 番の自治会交付金は「コミュニティ協議会運営費交付金と、活動内容で重複することがないかを精査し、内容的なもので不明瞭な点をきちんと整理すること」という意見を加えさせていただいた。</li> </ul>

事務局	<p style="text-align: center;"><b>13 番の交通安全協会交付金</b></p> <p>・こちらは、「多額の繰越金」というものを明記させていただいた。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>26 番の森づくり環境再生実行委員会補助金</b></p> <p>・こちらは、当初、現行のとおりであったが、委員さんにご意見をいただきまして、「育樹方向にシフトすること」という文言を加えさせていただき、「意見を付して現行のとおり」とさせていただいた。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>46 番の幼稚園運営費補助金</b></p> <p>・こちらは、以前に実績評価を取り入れることによって、メリハリをつけて交付するということは記載させていただいたが、それをさらに、明らかにさせていただいた形で、園児数だけでなく、取組内容によって分配するなどという文言を付け加えさせていただき、補助金の分配の方法について整理を行うことも加えさせていただいた。</p>
吉田委員	<p>・結論として、下の※で、「補助金の分配の方法について整理を行うこと」とあるが、これは抽象的な部分があるとあるが、どのように整理を行っていくのか。</p>
事務局	<p>・現行では、園児数を基に大きい園には多額が交付され、小さい園にはそれなりの額が交付されているということだが、そういうことではなく、例えば、違う面の必要性の観点等から分配しても良いのではないかという意見があったと記憶している。</p>
吉田委員	<p>・これは難しい問題である。基本があって、総論があって、各論があって、結果として園児が多いというならば、そういう実績を評価して補助金を多く交付するのは世間の一般常識の話かと思う。</p>
事務局	<p>・実績評価というところで、現行は幼稚園の園児数によって分配がさ</p>

	<p>れているが、単純にそういった園児数で補助金の多い、少ないかを決めて良いのかという議論になったと思う。そこでは、園児数で一律に分配する方式ではなく、例えば、こういったことを園がやりたいといったようなものを挙げていただいた中で、交付のメリハリをつけても良いのではないかという整理であった。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>・そうすると、この結論の文字の中で、園児数だけというものが、例えば、一人歩きをしたときに、メリハリをつけて交付するのかということが果たして、これがイコールになるのか。全く園児数とは関係ないという実績評価を取り入れることによって、補助金の分配の方法の整理を行うという結論づけであれば良いが、園児数だけでなくという文言を用いると、園児が多ければ当然補助金が多く交付していただくという考え方も生まれてくると思う。</p>
<p>秋山会長</p>	<p>・今までは園児数で分配していたということについて、その使われ方を含めてこれからも検討していくということによいか。今、吉田委員からあったことによると、分かりづらいということだと思う。ここでまた整理をしていきたいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>・例えば、補助金の分配の方法について、取組内容によって分配するなど、園児数というものを入れずに、実績評価を取り入れることによって、メリハリをつけて交付するなど活性化するような仕組みが必要という形の方がわかりやすいのか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>・基本はそこだが、いろいろな意見の中で、園児数だけでなく、もっとメリハリをつけて実施すれば良いという議論をしたとするならば、結論としては補助金の分配の方法については整理を行うという結論の方が良いと考える。文字の面では、園児数ではなく、それぞれ私立幼稚園の特色があり、子どもたちがどういう遊び方をしているのかと</p>

	<p>というような独自の取り組みがあるわけである。そのような中で特別 A という幼稚園より Bの方が違った方法をしているのであれば、補助金を交付するなど、相対論で見る部分と、総論・各論でみる部分の補助金のメリハリをつけるのが、この幼稚園運営費補助金の交付の方法であると思う。</p>
秋山会長	<p>・今、各自治体においても、こういったケースが多いようなので、こちらでも、園児数ばかりでなくて、各園によって、様々な子どもたちに対する施策等があり、十分価値があるならば、プラスしても良いという考えで対応するような補助金でありたい。補助金のためある程度上限はきちんと出しておかないといけませんが、そういったところで、メリハリということで委員の考え方はよろしいか。ですから、文書をちょっと修正していただく形をお願いします。他の委員からはどうか。</p>
小川委員	<p>・園児数だけでなくというのを削除してしまうのか。</p>
事務局	<p>・ニュアンス的に、ここに記載させていただいたものは、園児数だけでなく、各園の取組内容によって分配するなど、実績評価を取り入れるというニュアンスということなので、ほぼ同義と思う。</p>
小川委員	<p>・吉田委員の考え方は、確かに、補助金の交付については、実績を基に交付するのはそのとおりだと思うが、幼稚園の運営については、大規模だけでなく、小規模の幼稚園もあるため、園児数は前提において考えても良いと考える。したがって、園児数だけでなく、取組内容によって分配するなど、実績評価を取り入れることによって、メリハリをつけて交付するなど、活性化するような仕組みが必要という表現は適当だと思う。</p>
秋山会長	<p>・各幼稚園の経営的あるいは教育的な理念などが関わってきて、色々</p>

	<p>なものが実行されると思う。これまで園児数という形であったが、先ほど吉田委員からもあったように、良い保育教育をやっているところには、沢山交付することも考える時代であることは事実である。その辺をここでは、補助金の限度額は園児数でやっているの、ただ園児数だけでやるのが良いかどうかを考える必要がある。もちろん、幼稚園の規模があり、もっと教育的な効果も考えるところもあるということで、表現はどうしたら良いか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>・そうすると、小川委員からも意見が出たように結論としては、園児数だけでなくというのではなく、園児数を基本として取組内容によって分配という結論も出たという文章の方が良いと考える。園児数が多ければ多いなりの苦勞があるわけであるので、補助金の分配方法という価値観が出てくると思う。</p>
<p>矢田委員</p>	<p>・今の表現で実績評価により、メリハリをつけてというのが有効になると思う。基本として、園児数が多いところには補助金が増えてしまうと、考え、一定の補助金、人数に対するものは支給する中で、さらに、小さな園でもとても素晴らしいものを行っているところにはプラスαをするなど、補助金が削減よりは増えるがよろしく願います。</p>
<p>秋山会長</p>	<p>・今、吉田委員からの文章で良いと思うので、よろしく願います。</p>
<p><b>47 番の外国人学校運営費補助金</b></p>	
<p>事務局</p>	<p>・こちらは「廃止方向で見直し」とさせていただいたが、議会の請願採択の結果等があり、「意見を付して現行のとおり」とした。ただし、その意見の中では、実績がほとんどないのが実態であるため、今後の在り方について検討が必要と加えさせていただいたところである。</p>

事務局	<p style="text-align: center;"><b>54 番の行田市文化団体連合会補助金</b></p> <p>・当初、「減額方向で見直し」ということであったが、節約できるものがないか検討という「意見を付して現行のとおり」と修正させていただいた。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>59 番の市体育協会補助金</b></p> <p>・当初、「減額方向で見直し」ということであったが、「金額の多寡だけでなく、運営方法に無駄がないかを検討すること」という「意見を付して現行のとおり」と修正させていただいた。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>62 番の県土建建設国保組合補助金</b></p> <p>・こちらは「廃止方向で見直し」とさせていただいたが、様々な要因があり、他市町村では廃止しているところもあるので動向を見極めるという「意見を付して現行のとおり」とさせていただいた。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>84 番の行田軽トラ朝市実行委員会補助金</b></p> <p>・当初「現行のとおり」であったが、補助金額を減額していく方向性、また、出店する皆様の経営的な努力を期待して、出来るだけ早い段階で独立運営をできるような組織になっていただきたいという「意見を付して現行のとおり」とさせていただいた。</p>
事務局	<p>・前回分は以上とし、今回の方に入る。</p> <p style="text-align: center;"><b>【今回分の議事】</b></p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>89 番の研修助成金</b></p> <p>・意見として、自己研鑽に関する広報活動や、他の市町村で実施している大学や大学院への入学補助などを充実させてはどうかということで、「増額方向で見直し」とさせていただいている。</p>

事務局	<p style="text-align: center;"><b>90 番のふるさとづくり事業補助金</b></p> <p>・こちらは「増額方向で見直し」で、一部の地区で補助をしているところだが、そうではなく、中心地を外れたところにある歴史的な建造物も補助金の対象とすることや、補助金の最大限の活用法を検討すべきというご意見を加えさせていただいた。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>91 番の子育て世帯定住促進奨励金</b></p> <p>・こちらは、基本的な政策立案を考え、市民に理解していただくような政策を進めていただきたいということで、「意見を付して現行のとおり」とさせていただいた。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>93 番の住宅用太陽光発電システム設置補助金、94 番の住宅用高効率給湯器設置補助金、96 番の電気自動車等導入費補助金</b></p> <p>・93 番、94 番、96 番になるが、3 つとも「廃止方向で見直し」である。こちらは、環境課の補助金全体として、財政がどこまでできるかといったところをある程度区切らないと、限りがなくなる。情報の非対称性が強くて、得するものと得しないものがあるような印象を受けるため、公平性という観点からも見ないと行政に対する批判が出てくると思われるということである。こちらについては、原則 3 年間の時限で行っている補助金であり、いつまで伸ばすかという議論が必要なのかと考えたものである。</p>
秋山会長	<p>・今、事務局から説明があったが委員からの意見はどうか。</p> <p>94 番の住宅用高効率給湯器設置補助金は、「廃止方向で見直し」とのことだが、これについてはどうか。良い文章を加えて頂いたが、意見として、情報の非対称性があり、損する人と得する人のある補助金は色々と問題が出てくるということであった。</p>
事務局	<p>・補足で説明をさせていただくと、太陽光や高効率給湯器、あるいは</p>



	<p>電気自動車は国の方も先行して補助金を交付していた。動機づけという意味で何年か最初だけ補助金を交付し、後で補助金がなくなるというのは国の方でも実施しており、行田市もこの辺は時限で行っても良いのではないかという考えもある。</p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川委員から意見はどうか。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・93番の住宅用太陽光発電システム設置補助金、94番の住宅用高効率給湯器設置補助金の実績はどのくらい上がっているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・93番の住宅用太陽光発電システム設置補助金は、平成27年度決算額では、232万円であり、平成26年度と比較すると大きく減額となっている。件数は平成26年度で187件である。</li> <li>・94番の住宅用高効率給湯器設置補助金は、平成27年度決算では150万円である。件数は平成26年度で27件である。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の市町村では、太陽光発電の設置に関しては、景観を損ねるということで、大分制約をかけているのもある。行田市においては、補助金等を含めてそこまではやっていないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度までの普及目標として、市内の一戸建て住宅の設置率を10%以上とするという目標があったが、特段景観上の問題はあまり聞こえてこない状況である。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢田委員から意見はどうか。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・93番の住宅用太陽光発電システム設置補助金と、94番の住宅用高効率給湯器設置補助金は市内の業者からお願いするという事によいか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとおりである。そこが条件である。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者も色々な業者もあり、俗に言う悪徳な業者もおり、その辺の啓蒙も含めて考えていかないといけない。また、96番の電気自動車等導入費補助金も、情報の非対称性という形で、有田委員からの意見はどうか。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・93番の住宅用太陽光発電システム設置補助金、94番の住宅用高効率給湯器設置補助金、96番の電気自動車等導入費補助金は、得する人と得しない人が出てくるのは問題があると思う。ある程度時限で区切られているので良い機会かと思う。特に、太陽光については、過去にパネルの値段が高くて補助金が必要であったと思われるが、今はパネルの価格も低減してきたので導入しやすいかと思う。補助金を交付しなくても必要な人が付けるということで良いのではないかと考える。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・94番の住宅用高効率給湯器設置補助金は、行田市に永住してもらうための案件として出てこなかったか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これについてはなかった。あくまでも市内業者の育成という面で、市内業者を利用していただきたいというのはあったが、定住促進とこれは、特段この補助金を見たところではなかった。ただ、定住促進の中で、市内業者を使った場合では20万円を交付するとか、そういったものの中で、業者がこういったものを付けるというはあるが、特段これが条件となっているのはない。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうすると、業者側からでは、どのような方向性となってくるのか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、業者の育成というものは二次的な側面であって、まずこれを導入したきっかけというのはおそらくエコ対策である。そちらの方で、高効率給湯器を入れて、地球温暖化というものへの協力が観点であった。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうすると、業者としての実績は上がってきているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初これを入れるときは、業者と連携して事業を進めた経緯はある。ただそこは、さほど重きはないかと思う。この補助金を交付することによって、促進がされるという意味では、そのとおりであるが、一旦、こういったものを導入する時の動機づけには効果があったという印象はある。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初これを導入した時は、時限的なものがあったのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時限的なものがあるって、今、さらに延ばすかという議論になってくるかと思う。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請の件数は、上昇しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算上の、頭打ちがあるので、そこまでマックスで全部交付して終わりという形になっているかと思う。ですから、例年同じような数で推移していると思う。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時限的な予めの謳い文句があるのはとても良いと思う。</li> </ul>
有田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得する人と得しない人が出てくるのは問題があると思う。</li> </ul>

<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;"><b>95 番の環境フェスタ開催事業交付金</b></p> <p>・こちらは、環境対策の PR が上手に行われていないのではないかと いう、イベントが行田夢まつりの方の開催と併せての開催となっている 関係上、B 級グルメあるいはそういったものでの、環境対策に対し ての啓発活動が見えてこない。また、啓発活動が目に見えるような補 助事業にして欲しいとの意見であることから、「意見を付して、現行 のとおり」とさせていただいた。</p>
<p>秋山会長</p>	<p>・これは、環境対策への啓発活動が見えてこないとのことで、見える ような形の補助金を考えるべきだということを加えていただいた。</p>
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;"><b>99 番の生活路線バス運行事業補助金</b></p> <p>・補足をさせていただきたい。こちらは「現行のとおり」であるが、 特筆すべきところは、事業者が能率的な経営の基に改善努力をすべき という貴重なご意見を頂いているので、この辺を付記させていただき たいと思う。</p>
<p>秋山会長</p>	<p>・バス事業者も非常に高い能率的な経営を行った結果に対する様々な 欠損が出ているのならば良いが、補助金があるということで十分な経 営努力をしないという業者もいることも事実である。そして、交通需 要密度というのは、大きいところや小さいところもあるので、バスの 車両の大きさ、場合によっては、バス路線から、タクシーなどを使う 場合もこれからは出てくると思う。その辺を汲み、今事務局からあつ たように、能率的な経営の基における事業者であることを前提とした 補助金でなければならない。当然、誰がやっても赤字が出るような構 造的な赤字が出るけれども、それが十分な努力の基で出たものである かどうかのチェックは、行政側の担当課の方も、様々な角度から指 導・監督をすることが前提である。したがって、担当課の方もそうい ったところをチェックしていただきたい。</p>

	<b>113 番の老人福祉電話使用補助金</b>
事務局	・こちらは、「減額方向で見直し」であるが、生活保護費の中の生活扶助費で賄うことができないのか福祉課と協議していただきたいという意見が出たところである。これによって減額することが可能ではないかと考えこのような結論にさせていただいた。
秋山会長	・これは、生活扶助費で賄うことができないのかとのことだが、意見はどうか。
事務局	・低所得の方が、加入料金が高くて電話を入れられないということでの補助である。通常の固定電話である。
矢田委員	・電話機の方はこちらに記載しているとおり協議していただくということでもよろしく願います。
	<b>117 番の古代蓮の里イルミネーション事業補助金</b>
事務局	・こちらは、「意見を付して現行のとおり」である。公平性の観点や、費用ばかりだけでなく効果を見て整理していくことが必要との意見を記載させていただいた。
秋山会長	・ここでは、費用対効果において、費用は大体分かるが、効果をどのような形で図るかを検討していくような時代であるので、外部効果・内部効果について十分に検討していただきたい。
	<b>118 番の健康診断助成金</b>
事務局	・こちらは、「意見を付して現行のとおり」であるが、若干文言を修正させていただいて、広報活動と助成額の関係のご意見をいただいた。若干分かりづらかった面があり、広報による周知を図り利用率を

	<p>向上してもらいたい。それと、また助成額や自己負担額についてインセンティブをつけて補助するなど、工夫が必要と二段構えになっておりましたので、ちょっと書きぶりを変更させていただきたいと思う。広報による周知を図り利用率を向上してもらいたい、また、助成額や自己負担額についてインセンティブをつけて補助するなど工夫が必要という形にさせていただければ思う。</p>
	<p><b>119 番の産科医等手当支給支援事業費補助金</b></p>
吉田委員	<p>・119 番の産科医等手当支給支援事業費補助金は、行田中央総合病院に対して、平成 27 年度と平成 26 年度決算を比較した時に 1,355,000 円が増えているが、どのような理由であるのか。</p>
事務局	<p>・大きく増えた理由としては、緊急帝王切開の際の常勤医師がいないためである。市内で分娩できる病院は、行田中央総合病院だけであり、常勤医師がいない状況の中で、通常分娩であれば問題がない患者で、緊急帝王切開が発生した時に、提携病院の先生をお呼びする際に手当を支払うために増えている。</p>
吉田委員	<p>・今の説明では、一過性のものではなく、そういう事態が発生した場合には、この補助金が発生してくるということか。</p>
事務局	<p>・以前の予算の 80 万円という中では、分娩 1 件あたりについての補助が出ていた。そういった中で、病院からの要望もあり、体制を強化したいという意味で、市単独で大きな上乗せをしてきた経緯がある。</p>
吉田委員	<p>・単独または補助の部分では、県の補助となっているが、市としては。</p>
事務局	<p>・県負担分があり、その他を市が持っているというニュアンスである。補足で説明させていただくと、実は行田中央総合病院は、一人常勤で</p>

	産科医を雇うようである。そのため、補助金としては小さな金額になってくる可能性はある。
矢田委員	・今まで、行田中央総合病院には産科医はいらっしゃらなかったのか。
事務局	・いらっしゃったが、常勤ではなかったという話である。産科医というのは、重たい仕事らしく、撤退も視野に入れなければならないという話があったりした中で、こういった補助金の話が出てきた。
矢田委員	・産科医がいらっしゃると思っていた。帝王切開でなくても、通常分娩でもいらっしゃるものと思っていた。
吉田委員	・行田中央総合病院は、昔から川島先生が、産婦人科の先生であって、常勤でいるものと考えていた。
事務局	・産婦人科はあるが、常勤でなかった中での補助金であったと記憶している。吉田委員がおっしゃるように、昔は川島産婦人科であった。
矢田委員	・今の話だと、大変ありがたいことである。
事務局	・行田で出産ができなくなる場所がなくなるのは大変なことである。
江黒委員	・帝王切開とかはできないのか。
事務局	・できないところもあり、提携病院に行かれるケースもあるようである。行田中央総合病院は、施設的には素晴らしい施設があって、あとはマンパワーと言いますか、先生のお力と記憶している。
矢田委員	・是非、いい流れになっていただければ安心であり、こういった手当

	を交付して立派な先生に来ていただければと思う。分娩は大変なことである。
吉田委員	・そういう帝王切開という部分だけを見ると、その年によっては結構金額が出るのか。
事務局	・実績によるものである。
吉田委員	・その辺の予算を計上するにあたり、どこまで物差しで線を引くのは別として、ある程度この部分についての、人の命が生まれてくるのだから、補助金としては大事になる。
秋山会長	・今おっしゃったように、補助金という形で決められている、弾力的な形でやっていただければ一番良いと思う。あるいは、ちょっと大きな一般的な補助的なものにして、各個別にこう上手にその年毎の中で使われるのが一番良い。でもこれは、やむを得ないですね。
<b>122 番の保健活動推進費交付金</b>	
江黒委員	・122 番の保健活動推進費交付金だが、保健協力員 1 人につき 2,800 円という、当時の質疑応答の中で、論点がずれているかもしれないが、予防接種のことで、行田市は推奨の予防接種に関して、他の市よりも自己負担が多いということがあるが、矢田委員の話ではないが、小さい子をお持ちの方の負担分が負担だということで、減額とは話が逆になってしまうが、他の市と合わせて自己負担額を減らすということではできないかと思う。
事務局	・ここで言っていたのは、高齢者の肺炎球菌ワクチンのことであり、これは市町村によって結構バラツキがあり、議会などでも議論の対象になっていた。他市町村より高かったというのものもあるが、ワクチン代



<p>矢田委員</p>	<p>はご負担頂きたいというのはあり、一生に一回打てば良い接種であったりするので、一定のお金を頂くことで受ける意識に繋がるため、ご負担頂いている部分はあると聞いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、行田市が 4,000 円の自己負担に対して、自治体によっては、1,000 円や 2,000 円のところもある。今の若い人達はネットで情報を素早く察知して、自身で他市との比較をしている。ですから、ここでもそういう現状を周知しているけれども、皆さんに協力をとというような文面が表れているが、多くの方たちの声は、やはりもう少しワクチン代を安くしてほしいという声も聞かれる。</li> <li>・補助金というのは自分に直接関わりがあって、これが補助金で賄われてワクチン代が安いなどという実感を持っていることが市民としては行田市の補助金は正しく使われているという気持ちを持つと思う。例えば、子育ての若い世代、高齢者の方たちの、そういう自分に補助金を頂けるのが、本当に一番大切なところであると思う。商業関係の方達から還元されているのは、なかなか伝わらないという思いを持っている。その辺を汲んでいただきたい。ワクチン代が安くなるように、割と皆さんネットで情報を仕入れており、話題にもしているので、特に子供にかかるものはお金がかかるという話も聞いている。</li> </ul>
<p>秋山会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私達の制度や要望に関しては、補助金よりも無料化でやるべきようなものが沢山ある。そういった中で、財政的な制約や色々な政策から、こう限られたという形でなされるが、本来ならば、むしろ補助金よりも全額業者のようなものでやってやるというものもあると思うので、矢田委員が言ったようなことをも是非とも事務局の方で入れていただきたい。</li> </ul>
<p><b>124 番の不妊治療費助成金</b></p>	
<p>吉田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・124 番の不妊治療費助成金は、今までの実績で行田市は何人くらい</li> </ul>

	いたのか。
事務局	・少し古いデータであるが、平成 24 年度実績が、交付申請が 32 件、その内妊娠成立件数が 7 件。平成 25 年度は交付申請が 29 件、その内妊娠成立件数が、12 件。平成 27 年度決算では、41 人である。
秋山会長	・この点については、大分情動的なものは行き渡っているのか。悩んでいて、分からない方もおり、お金の問題もある。
事務局	・これについては、埼玉県でも助成しており、埼玉県で対象となった方に、上乗せで補助しているようなイメージである。
吉田委員	・行田市の方が埼玉県に申請しているわけか。
事務局	・そのとおりで、そういった方が対象となっている。埼玉県の制度をもらう方にさらに上乗せでこの額を交付している。
秋山会長	・多くの悩んでいる方に知っていただき、このような制度を使っていたくことも今、今日の少子化に対応できるのではないかと思う。
	<b>128 番の教育振興奨励費補助金</b>
秋山会長	・こちらは、「意見を付して現行のとおり」だが、内容的なものを見て、無駄なことや、今の時代に即していないものがないか精査が必要である。また、市民に対して、補助金が大切に使われているということを示す報告書の作り方も必要ではないかという意見をいただいたところである。
秋山会長	・これについて小川委員はどうか。

小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に意見はない。</li> </ul>
	<p><b>142 番の教職員研修補助金</b></p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・142 番の教職員研修補助金は「減額方向で見直し」とさせていただいた。支出金額について精査がされているのか。その効果について検証されているのか。もう一つは、どこを重点的に補助するのか検討が必要との意見をいただいたところである。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田委員から、意見はどうか。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を見ると、結構時間がかかると思うが、計画的に行えばできることである。ちょうどの金額になっているので、支出金額が適正ではないと思われる。ヒアリング時の意見で、学校側がイニシアティブをとるのか、もしくは行田市側がイニシアティブをとるのかはわからないが、どちらかがここに重点を置いて行った方が効果的な運営ができると考えるとあるが、平成 25 年度決算と平成 26 年度決算を比較したときに、約 1 万円支出が増えている。これに対して事務局側としては、「減額方向で見直し」とはどのように考えているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算査定上の増えているのを思い起こしていたが、年によって違うが、おそらく先生が、例えばどこか遠くに出張する研修もあったときの補助もここで交付している。だから旅費的なものである。ですから、行く場所によって増減をしたりするのがある。大元の要求的な考え方を改革していかないとなかなか減額できないと考える。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これを見ると無理に消化している感じがする。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこまで補助をするかの問題である。</li> </ul>

秋山会長	・教育というのは、これも必要だ、あれも必要だということで、限りがない。
事務局	・本来は、学校の先生は、県費の先生ですから、市費がここで持つような理由は別個あるような気がする。
吉田委員	・県費であり、市費ではないものである。
事務局	・教育分野は、補助金について市が関わってくるものが多い。
秋山会長	・俗に言う、教育という名のもとでのということになってしまうと思われる。
事務局	・こういった記載も、一つには良いということで、動機付けにはなると思われる。
秋山会長	・私は大賛成である。ある程度減額みたいなインセンティブを与えることを検討していただいた方が良いと思う。
有田委員	・私も吉田委員と同じ考えである。事務局も同じ「減額方向で見直し」と書かれているのでよいと考える。
秋山会長	・刺激を与えるという意味では零にした上で考えても良いが、そうはいかないので、「減額方向で見直し」でお願いする。
<b>145 番の公募行田市美術展交付金</b>	
事務局	・145 番の公募行田市美術展交付金だが、「増額方向で見直し」とのことだが、優秀な作品への賞品レベルを上げるなどの工夫が必要ではないかということである。こちらに関しては、「増額方向で見直し」

	<p>という形で一旦書かせていただいているが、「意見を付して現行のとおり」という考え方もあると思う。</p>
有田委員	<p>・事務局の方から、「意見を付して現行のとおり」というのもよいのではないかとあったが、私もそのように考えている。勿論、優秀な作品や、美術に親しむ方々への助成は必要だと思うが、現行の範囲内に収まっていると思うので、「意見を付して現行のとおり」とするのが良いと思う。</p>
秋山会長	<p>・今、有田委員から意見をいただいたが、どうか。「増額方向で見直し」ということから、こういう文書を加えることによって、今までの補助金の中で、賞品レベルを上げるような工夫をやっていただきたいということによろしいか。委員からの意見はどうか。</p> <p>&lt;意見なし&gt;</p>
秋山会長	<p>・ではこの意見でお願いします。</p>
事務局	<p>・承知した。</p>
吉田委員	<p>・「増額方向で見直し」ということで、優秀な作品への賞品レベルを上げるなどの工夫が必要ではないかとのことである。これは、専門家の先生に観てもらって、本当に優秀だというような選考委員を設けて増額するということであるのか。</p>
事務局	<p>・これは、もしかしたら内在していたかもしれないが、賞品を期待して出品する人はいないのではないかと、むしろ賞品がなくても入選したということに対するそちらの方が大きいのではないかと意見が出た。ただ素晴らしい作品なのでもう少し賞品レベルを上げて良い</p>

	<p>のではないかという意見が出たことを記憶している。逆に言うと、公募美術展の質の向上に繋がってくるのかと思う。</p>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出品料は頂いているとのことだが、その値上げは考えないでしょうからね。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部の方も、賞品目当てに出品する方はいないということをお願い切っていたと思う。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり増額であるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは「意見を付して現行のとおり」の方が良いのではないかと思います。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど有田委員からもあったが「意見を付して現行のとおり」としていただいて、また努力をしていただくということで良いと思う。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も増額と謳わないで、「意見を付して現行のとおり」が良いと思う。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他に委員からの意見はどうか。</li> </ul> <p>&lt;意見なし&gt;</p>
	<p style="text-align: center;"><b>149 番の農業生産物展示会交付金</b></p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こちらは「減額方向で見直し」だが、農業祭について市が補助金を交付すると同時に、構成団体としての JA ほくさいも多少の負担として補助をしてもよいのではないかと意見をいただいたところである。当初は、「減額方向で見直し」と記載させていただいたが、これ</li> </ul>

	<p>を「意見を付して現行のとおり」としてもよろしいか。これは市の主催であるので、JA から頂いても良いのではないかという意見があったため、JA から頂くことによって市の補助金を減らせるのではないかと一旦は考えたものである。</p>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は、JA は負担していないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の主催であるため、負担はしていない。なので、そういう意見は貴重なので記載させていただきたい。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「意見を付して現行のとおり」という形でやっていただいて、その後の開催については、負担を求めたりして、高い成果を上げていただきたい。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>152 番の農業後継者奨学資金交付金</b></p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・152 番の農業後継者奨学資金交付金は、「意見を付して現行のとおり」となっているが、表現がわかりづらかったため、中身を考慮させていただいた中で、次のように変更させていただきたい。農業後継者の育成への取り組み姿勢をまずアピールすべき、もう一つは、農業後継者の問題は、農業大学校に入学するのではなく、様々な方へ農業ビジネスとして、研修会の費用も賄っているということも含めて主張していくと強いアピール力がある。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人当たり 118,800 円の補助金で、就学にかかる奨学資金だけでも、主管部は、どういう風な勧奨、宣伝、今後の行田市の農業の後継者という位置づけでやっているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に難しい質問だが、一人であるが、就農というのは、こういう政策の基に成り立っているわけである。農業は非常に保護を受けてい</li> </ul>

秋山会長	<p>る事業であり、就農の志のある方に対しては手厚くすることによって、後継者の育成の問題がクリアできるという根本はあると考える。</p> <p>・農業に関しては、ビジネスモデルをきちんと形成されて政策的にやってみたいという人が出てこないとな名目的にやるだけでは育っていないと考える。</p>
事務局	<p>・TPPの問題もあるが、今後は大規模の方に転換していくという話がある中で、高度な知識を得ようとする方に対する補助は一定の成果があると思う。</p>
秋山会長	<p>・補助金漬けでやっている産業で伸びたものはただ一つもない。</p>
有田委員	<p>・補助金頼みの事業は、成長しないと考える。TPPにより、補助金がなくても自律的に事業ができるものでなければならない。</p>
秋山会長	<p>・したがって、市としても農業の産業としての魅力をどういう風に若い人たちに与え、そういう意味で後継者の補助金がこういった風にあるかということの使い方を考えていかななくてはならない。農業というのはなくてはならないものである。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>153 番の園芸生産流通改善促進対策事業補助金</b></p> <p>・153 番の園芸生産流通改善促進対策事業補助金は、実際、平成 28 年度に「攻めの農業支援事業補助金」というものに統合しているので、「統合」とさせていただいた。</p>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>156 番の勤労者住宅資金利子補給金</b></p> <p>・こちらは「廃止方向で見直し」とさせていただいた。中央労金に対する利子補給であり、特定補助であり、また、説明の中では件数の減</p>



	<p>ってきているという中で、そろそろ見直しの中である時期にあるのではないかということがあったためである。</p> <p><b>157 番の人材育成事業助成金、158 番の小規模事業対策補助金、159 番の商店会連合会商業活動事業補助金、160 番の商店協同組合事業補助金</b></p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 157 番の人材育成事業助成金は、「減額方向で見直し」とさせていただいたが、市としては商工会議所に別の名目でかなりの補助金を交付していることから、当該補助金について検討することという形にさせていただいた。</li> <li>・ 158 番の小規模事業対策補助金と、159 番の商店会連合会商業活動事業補助金は、こちらも商店街の関係の補助金だが、両方とも「減額方向で見直し」とさせていただいた。こちらは、昭和 53 年から一度も見直しがなく現在まで定額補助をしている点について、今後見直しが必要と考えた。</li> </ul> <p>秋山会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今説明があったが、意見はどうか。</li> </ul> <p>矢田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結論の内容で、減額や廃止と色々あるが、厳しい財政状況なのでこれで良いと思う。</li> </ul> <p>秋山会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小川委員からはどうか。</li> </ul> <p>小川委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 158 番の小規模事業対策補助金、159 番の商店会連合会商業活動事業補助金、160 番の商店協同組合事業補助金は、昭和 53 年から見直しがなくて現在まできているという補助金であるが、商店街の補助は、確かにその時の方向性としては、「減額方向で見直し」としたが、160 番の商店協同組合事業補助金については、商品券を発行して市民の皆様に行田市の商店会に入っているお店のものを是非とも買って</li> </ul>
--	--

秋山会長	<p>下さいということで、1割2割、多い自治体では3割など付加価値のある商品券を発行している自治体もあり、減額の必要性はあると思うがどうか。行田市内は個人商店が多く、大型店がないため、どうしても市外の大型店へ商品を求める傾向が強いかと思うが、それをできるだけ、市民の方は市内の商店の商品を買っていただく観点から見ると、ちょっと不安なところもある。</p> <p>・157番の人材育成事業助成金、158番の小規模事業対策補助金、159番の商店会連合会商業活動事業補助金は、「減額方向で見直し」とのこと、先ほど説明していただき果たして良いかということだが、江黒委員からはどうか。</p>
江黒委員	<p>・今の行田の街並みを見ると、確かに減額となるとさらに落ち込んでいってしまうともあるが、先ほど有田委員が述べた補助金頼みになるというところも上手いかなというところもあるので、「減額方向で見直し」が良いと思う。</p>
秋山会長	<p>・マーケット主義で考えるべきか、あるいは政策的に振興を少しでも考えて上げるという考え方もあるが、なかなか難しいところである。おそらく色々な形で答申を出しても政治的な判断が次の段階にある。こういう二とおりの意見が出ましたが、表現の問題でしょうか。</p>
事務局	<p>・折衷案ではないが、157番の人材育成事業助成金に関しては、執行部の方も、これについて考えていくのもあるというニュアンスも出ているので、こちらについては「減額方向で見直し」を残させていただき、158番の小規模事業対策補助金と159番の商店会連合会商業活動事業補助金は、下の意見が重要なので、今後見直しが必要と考えるというところでは、定額補助をずっとしているというのはどうなのかというところに非常に重点があるため、これを「意見を付して現行の</p>

秋山会長	<p>とおりにしても良いのではないかと思います。</p>
吉田委員	<p>・吉田委員からは意見はどうか。</p> <p>・小川委員からも出ましたが、私も一考を要すると思うが、昭和 53 年から一回も見直しをしていないというところが一番大事なところであるとする。157 番の人材育成事業助成金は「減額方向で見直し」であるが、平成 28 年度予算は対前年度比で 25 万円減額しており、既に減らしているのであれば、さらに減額の見直しではなく、「廃止」で良いと思う。なぜならば、市としては商工会議所に別の名目でかなりの補助金を交付しているからである。</p>
有田委員	<p>・話はちょっと変わるが、今、我々の金融機関では事業性評価ということで、企業を商品サイドでどの入口に照らすのかということをやっている。例えば、スーパーであれば、この地域のスーパーは規模を拡大するのか、規模を拡大せずに店舗の質を上げていくのかということの評価し、例えば、店舗の質を上げるならばそこに融資するという事業性評価をするわけである。</p> <p>・行田市の場合は、補助金は限られているため、どこの補助金を投じていくのかを考えた場合に、古代蓮の里などの観光資源であったりするところに補助金を交付するべきであるとする。結果的に商店街は衰退しているという形だと思う。したがって、補助金のメリハリをつける、総括的な意見もあったかと思うが、メリハリをつけるという意味では、減額で良いと思う。結果的に、もし商店街が復興されるのであれば、それは復興されるように補助金を投じていければ良いと思う。時代は変化しているので、この流れはしょうがないと思う。</p>
秋山会長	<p>・確かに選択肢というか、事業サービスもライフサイクルがある。商店街の位置づけが衰退期に向かっているときに、一般的な経営学で言</p>

<p>小川委員</p>	<p>うとそこに資金をまた投入するというのは、まず経営者の立場で考えるならばやらない。ですから、やっぱりこれから、行田市はどういったところを行政的な面で輝くものにしたいかという所に補助金を投入すべきだというのが論理だと思う。そう考えると、減額も止む無く、廃止ということも文面の中で、将来的に廃止も考えられるという強い含みを加えるのも必要かと思う。小川委員からはどうか。</p> <p>・それで良いと考える。</p>
<p>矢田委員</p>	<p>・159番の商店会連合会商業活動事業補助金は定額補助100万円であるが、売り出し等の実施の時に、このお金を使うということで、確かに売り出しの時には、市民の方もみんなこぞって、商店に買いに行き割引券を頂いて、歳末の時にくじを引いて、それはそれなりの活性がある。是非、文書だけでなく膝を突き合わせて商店街のトップの方や皆さんと話をさせていただきたいと思う。現状を考慮した上で減額をとというような話をするのも一つであり、相手の方もやむを得ないと思うようなところもある。現状の中で、工夫してお金を違った意味で使って効果があるのであれば、それはその方が良くと思う。減額方向という文書はそのまま活かしていただきながらの、コミュニケーションをとっていただきたいと思う。</p>
<p>秋山会長</p>	<p>・そうですね。場合によっては、そういった内容で書いていただいて、中には、廃止もありうるという強い口調も入れていただきたい。やはり、何回も言葉に出ましたように、補助金だけでなく、商工会の皆様、特に事業している方の創意と知恵が大事である。</p> <p>・一般の企業経営で言うと衰退しているものには、資金は投入しないということであり、きついです。世の中の流れが変わっているので、その流れに合わせるような考え方を業者にも求めていかないと、我々外からの補助金だけでは活性化には繋がっていかない時代であ</p>

事務局	<p>ることを認識いただきたいと思います。そういうことでお願いします。</p> <p>・それでは、157番の人材育成事業助成金、158番の小規模事業対策補助金、159番の商店会連合会商業活動事業補助金はこのままとさせていただくが、特に157番の人材育成事業助成金については、廃止を含めてというニュアンスを入れさせていただく。</p>
事務局	<p><b>162番の小口事業資金利子補給金、163番の商工業振興資金利子補給金、166番の中小企業経営近代化振興資金利子補給金</b></p> <p>・162番の小口事業資金利子補給金、163番の商工業振興資金利子補給金、166番の中小企業経営近代化振興資金利子補給金は、この3事業につきましても、名称は異なるが必要性や効果などが似ていることから、これらが一本化はできないか検討することとあり、「統合の検討」とさせていただいた。</p>
秋山会長	<p>・3つの「統合の検討」について意見はどうか。</p> <p>&lt;意見なし&gt;</p>
事務局	<p><b>168番の起業家支援助成金</b></p> <p>・168番の起業家支援助成金は、「減額方向で見直し」とさせていただいた。こちらは、改修費の助成金は、空き店舗を改修する場合と、空き家を店として改修する場合などを考えた上で、支出することが必要だと思う。また、行政側がただ補助金を交付するというのではなく、ベンチャーを含めて創業のしやすいまちをつくるための教育を充実すれば、補助金も大分減らすことも可能になると思われるというご意見をいただいている。因みに、現在、空き家を改修した場合にはこの補助金は交付されないことになっている。</p>

秋山会長	<p>・「減額方向で見直し」とのことだが、こちらについての意見はあるか。ベンチャーを含めて、創業しやすい街づくりというのは大切なことである。この辺は、文章に明記していただきたい。また、起業家支援の場合は、県の方でも沢山の助成があり、中小企業庁の方でもベンチャーに対する支援の方法もある。日本政策金融公庫や、三井住友銀行などもベンチャー支援をやっていたりする。</p>
有田委員	<p>・各金融機関で、ファンドを設けてやっているところがある。</p>
秋山会長	<p>・そういった支援もあるということを知っていただくことが必要だと思う。それを含めてここでは、「減額方向で見直し」になっている。さらには、女性に対する支援というのも最近大分出ているが、行田市ではどうか。</p>
事務局	<p>・女性政策に関しては、別途、補助等はある。</p>
<p><b>169 番の中小企業振興事業補助金</b></p>	
事務局	<p>・169 番の中小企業振興事業補助金だが、「増額方向で見直し」とさせていただいた。こちらは、事業拡大設備投資補助事業について、1件につき上限の 500 万円というのは少ないと思われる。企業にとっては、この補助額では使いづらいと思うので、もっと拡大をしても良いと思われるとのことであった。</p>
秋山会長	<p>・上限の 500 万円というのは少ないということで、増額の方向ということである。小川委員からはどうか。</p>
小川委員	<p>・設備投資となると事業者もかなりの支出が予想とされるので、500 万円というのは少ないというような気がする。</p>

吉田委員	<p>・これは、平成 28 年度予算が対前年で 620 万円減っている中で増額方向のためとある。また、1 件につき上限の 500 万円というのは少ないと思われる。企業にとっては、この補助額では使いづらいと思うので、もっと拡大をしても良いと思われるとあるが、この辺はどうか。</p>
事務局	<p>・このようなご意見をいただいております、この予算が減った理由は、申請があった時に補正をするというニュアンスが含まれている。</p>
秋山会長	<p>・中小企業振興事業補助金を拡大してなどという意見を付けたいところではあるが。</p>
小川委員	<p>・手を挙げてくれる企業があればいいのですが。</p>
秋山会長	<p>・もちろん、こういう補助金という形でなくても、大変様々な融資制度もある。市の方でも、お知らせをしていただくと良いかと思う。これについてもよろしいか。</p>
<p><b>170 番の企業立地奨励金</b></p>	
事務局	<p>・これは、「意見を付して現行のとおり」となっている。内容は、市の土地ではないということだが、これは市で工業団地を造成していない関係上、企業に土地を探していただく状況ではという風に捉えてさせていただければと思う。そのために、企業が進出しづらいと思われる。個人の空き地を自力で探してくださいというのはいかがなものかとの意見をいただいたところである。</p>
秋山会長	<p>・結論で記載されている、空き地を自力で探してくださいというのはちょっと酷ではないかということで、市の方では、空き地対策等の担当課はあるのか。</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工観光課の中にある。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこで金額的な問題だが、意見を付すということで、こういう論旨を付け加えるということになる。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「意見を付して現行のとおり」という結論の補足として、現在、市の土地ではないということで、企業が進出しづらいと思われる。これだと、やはり雇用の促進、税収の増加は難しく、個人の空き地を自力で探してくださいというのはいかななものかというのは、他人事のような企業立地の奨励金を補助として交付すべきという委員会の結論に繋がる。企業立地奨励金として平成 28 年度は 162,804 千円も予算があるならば、柿沼産業振興推進幹に確認するべきだが、実際はどうなっているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おっしゃるとおりであり、この言葉の裏にあるのは、市が工業団地を造成して、お膳立てをした方が良いのではないかということなのかと思った。ただ、今それはできない状況の中で、こういった意見が出たのは事実であるので記載させていただいた。来ていただいた企業に対する奨励金ですので、一歩進んだ意見になってしまっている。</li> </ul>
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業が来てくれたことに対する奨励金だが、企業が来なければ奨励金としての位置づけは何もないわけである。そうなると、どうも先行き不透明な部分で、現在実際どうなっているのかという、補助金等調査委員会から各委員からこういった意見が出たが、実際どうなっているのか、本当に奨励金としてそういうものが必要なのか、現段階では必要ではないと言わざるを得ないという意見が今回の補助金等調査委員会の結論文章ならばいいが、主管の商工観光課の企業立地担当が何をどうやっているのかはちょっとクエスチョンがつく。</li> </ul>



事務局	<p>・おっしゃっている意味は良く理解できる。受け皿を作らずして、補助金ばかり作っても意味がないという趣旨である。</p>
小川委員	<p>・一つは吉田委員がおっしゃるとおり、進出した企業・事業者に対しては、一定の条件を基に補助金を交付するということだが、色々な産業構造の変化によって、工場が衰退して、その工場が廃止・撤退ということもある。そうすると、工場の敷地を売りに出すという企業も出てくるわけである。そこに目をつけた企業が、その地の利にあった商売があれば跡地に進出するという考え方も出てくると思われる。そこで、その土地の規模等の一定の要件を満たしていれば、このような奨励金が交付されるということで、空き地を見つけて進出する企業もあると思われる。南大通りと国道125号が交差するところに関東いすゞ自動車(株)が進出したが、市が工業団地を造成して来てくださいというのも市の政策としての方法かもしれない。そうすると、市の財政的な負担もかなりのダメージがあるわけで、それを回復するまでには財源収入の期間があるわけである。しかしながら、この方法ですと、自分で場所を見つけて、来ていただければ交付するということですので、こういった奨励金としての補助は、利に叶ったものなのかと私は考える。</p>
有田委員	<p>・企業立地奨励金というのは、企業が立地、来ていただいたの結果の奨励金ですので、この補助金が増える取組みというのは良いと思う。意見が出たのは、企業が来てもらうには、土地が必要だということで、その取組みを商工観光課が、やっていたかかないといけないと思う。実際、我々、金融機関として活動していて、実は行田に進出したいという企業が多い。例えば、久喜は圏央道が開通して土地はあるが人は確保できないというのが主な要因であり、行田だったら人は確保できるというのがある。埼玉県は、企業立地が全国的に見て成功しており、知事がかなり旗を振られている。行田市も商工観光課だけでなく、全</p>

小川委員	<p>体として、企業立地奨励金が増えるような取組みを、リーダーシップをとってされた方が良いと思う。結果的に奨励金が増えれば、住民の定着や人口増に繋がるので、結果的に税収増に繋がると思う。そういった活性化する取組が必要と思われる。</p> <p>・有田委員のおっしゃるとおりですが、市としても、企業自身が自分で見つけるというのは建前ですけれども、当然行政側もそういった跡地が見つかった場合に、媒体を使って紹介をしていると思われる。それに気づいていただいて、来ていただく取組は当然やらなくてはならないと思う。文面の件は、吉田委員に言わせると他人事のような感じですが、言い回しを柔らかくするとか、工夫をしていただければよろしいと思う。</p>
吉田委員	<p>・結論の文章だけを見ると、162,804 千円という奨励金は何を基に算出されたというものが、この結論を読んだだけでは、全く 162,804 千円の奨励金というのは、どこにどういう価値観があるのか、どこに企業立地を求めているのかわからない。そのために 162,804 千円も行田市が奨励金として交付するという位置づけで捉えられてしまうので、この辺の文書の整理は、良く柿沼産業振興推進幹と調整していただきたい。</p>
秋山会長	<p>・私から意見を述べさせていただくと、あまり土地の大きいものを持つてくる企業と言うと、あまり付加価値の高い企業はない。どちらかというと、数人ぐらいでも付加価値の高い生産性の高い企業が沢山ある。そういう企業が来たら、色々な形で援助するべきだと思う。</p> <p>市長を中心として、担当課が来ていただきたい企業をセールスして歩くことも必要であって、本当に良い企業が来ていただければ市の方も金融機関もみんなでバックアップするという形での企業立地を望みたいと思う。ですから、議会をはじめとする、政治的なものが大きな</p>

	<p>影響があると思う。例えば、栗山町の椿原町長は、まず役場にいたことがない。東京を拠点として、九州から至るところまでセールスをしている。そういう時代なのである。</p> <p>したがって、否定的なことを言って申し訳ないが、こういう何㎡とか、そういう文章は二十年から三十年前の企業誘致のあり方の文章かと私は見たわけである。その辺を含めて、補助金の額も大きいですから、もっとこれを吉田委員からありましたように、どういうことでこの金額がなっているかをもう一度原点に戻って見直しをして再考をしていただきたい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修正をさせていただく。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>175 番の行田市 B 級グルメ大会開催事業交付金</b></p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは「統合の検討」として、“夢”まつりの一本化への方向転換も必要だと思われるという意見をいただいたところである。その辺はというところは、なくてもわかるため、カットさせていただく。</li> </ul>
秋山会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“夢”まつりの一本化への方向転換も必要だということだが、意見はどうか。</li> </ul>
矢田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この内容で良いと思う。</li> </ul>
江黒委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も一本化した方が有効だと思う。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>177 番の木造住宅耐震改修等補助金</b></p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは、「意見を付して現行のとおり」であるが、補助制度の活用をいかに周知していくかの検討が必要との意見をいただいたところである。</li> </ul>

秋山会長	・補助制度の活用をいかに周知していくかの検討が必要との意見があったが、吉田委員からの意見はどうか。
吉田委員	・国が補助金を減額したということか。
事務局	・今はついていないかと思う。
小川委員	・特に意見なし。
有田委員	・特に意見なし。
	<b>&lt;総括&gt;</b>
事務局	・本日の意見を基に修正をさせていただく。
秋山会長	・最後に、全体的に今日のところで、この辺をもう少しこのような文章や考え方にしたいなどの意見はあるか。意見がないようなので、本日の会議はこれで、終了とする。次回は、今日いただいたものの修正と、既に配布済の総括的な結論について協議をいただきたい。
事務局	・今後の進め方について事務局より説明。 ・次回の会議の日程（平成 28 年 10 月 27 日（木） 午後 1 時 30 分の開催） ・以上をもって第 9 回補助金等調査委員会を閉会する。
	<b>&lt;閉会&gt;</b>